



### 香港における合併 (Amalgamation)

いは Amalgamation と訳されます。両方ともほぼ同じ意味で使用され、大きな違いはありません。新条例では、Amalgamation の表現が使われていますので、合併 (Amalgamation) の方を使用したいと思えます。

社への資産・負債および資本などすべて事業譲渡を行い、その一方、消滅会社への解散・清算あるいは登記抹消を別々に進めることで、吸収合併に近い効果が得ていました。また、必ず裁判所の認可を得る (旧会社条例 166 および 167 条、必要があったため、費用がかかりすぎるため、相当大きなケースを除き、実務上あまり利用されませんでした。

を問わず香港会社は必ず有限会社であること (Company Limited by Shares)。  
 合併会社同士は必ず 100% 保有のグループ会社間であること。  
 合併会社は必ず支払い能力がある必要がある。被合併会社の直近 12 カ月以内に決済期限がくるすべての負債を支払うことができる。

いなくキャンセルされる合併会社は、残された子社の社名および定款を用する。(図 B)  
 (このシリーズは月 1 回載します)

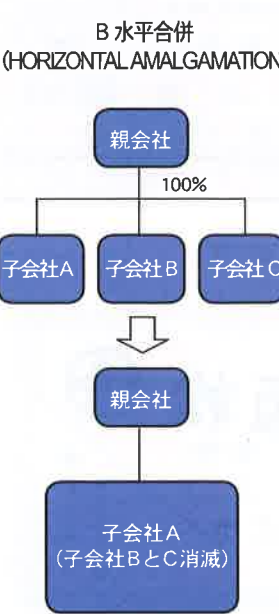
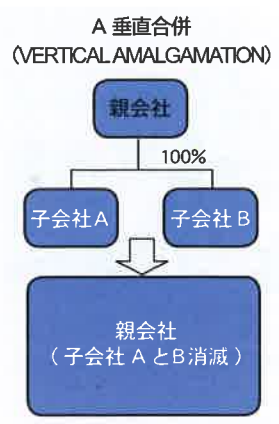
合併 (Amalgamation) とは、2 社あるいは、2 社以上の会社の事業、資産、責任、債務などを結合させ、元の会社あるいは、新しく設立された会社に統合 (Cap 622 以下「新条例」) 合する法的手続きのことです。2014 年 3 月 3 日に施行された香港の新会社法例 (622 章) (The New Companies Ordinance) 合併は、Merger あるいは、裁判所の認可の下、存続会

という。により、100パーセントのグループ内の合併の場合は、裁判所の承認なく行えるようになります。合併は、Merger あるいは、裁判所の認可の下、存続会

旧会社条例 (第 32 章) で、合併という文言こそ含まれていないものの、合併制度の具体的な法規がなく、裁判所の認可の下、存続会

合併の法的条件  
 新条例により、裁判所の認可なしの合併手続きが認められるようになりましたが、その条件は以下の通りです。  
 合併する法人は必ず香港設立会社であること。  
 新条例により設立された会社、あるいは旧条例時代に設立された会社

合併方法  
 垂直合併の場合は、子会社の株はすべて支払なしにキャンセルされ、親会社に残り、法人名も親会社のまま使用する。親会社の定款が合併会社の定款となる。(図 A)  
 水平合併の場合は、子会社間で合併され 1 社の子会社のみを残し、他のすべての子会社の株式は、支払



**筆者紹介**  
 ANDY CHENG  
 弁護士 アンディチェン法律事務所代表  
 米系法律事務所から独立し開業。企業向けの法律相談・契約書作成を得意としている。香港大学法律学科卒業、慶應義塾大学へ留学後、在香港日本国総領事館勤務の経験もありジェトロ相談員も務めていた。日本語堪能  
 www.andysolicitor.com  
 info@andysolicitor.com